平成 28 年度

「生涯学習に関する意識調査」
調査報告書

調査の概要

1. 調査の目的

生涯学習センターの利用の有無を問わず広く市民にアンケートを実施することで、生涯学習に対する意識の実態を調査し、今後の事業計画に活用する。

2. 調査実施施設

以下の 4 施設が調査を実施した。

西部生涯学習センター、北部生涯学習センター、藁科生涯学習センター、駿河生涯学習センター

3. 調査実施期間

配布期間：平成 28 年 6 月～8 月

回収期間：平成 28 年 6 月～9 月

4. 調査結果の表示方法

複数回答可能な設問の場合、すべての設問の合計が 100%にならない場合がある。また、1 項目を選ぶ設問の場合も、端数の処理の都合上、合計が 100%にならない場合がある。

Ⅰ調査対象

1. 調査対象

静岡市葵区の生涯学習センター近隣の自治会町内会に属する組長とその家族、及び駿河区の大学に通う学生を対象とした。

西 部	田町学区(467)、三番町学区(422)
北 部	井宮北学区(534)、賤機南学区(646)、賤機中学区(70)、賤機北学区(48)
藁 科	服織学区(982)、南藁科学区(160)
駿 河	県立短大(330)、県立大学(160)、静岡大学(335)、東海短大(130)、競輪場(20)、白寿荘(20)、芹美(20)

2. 調査方法

各地区の連合自治会長を通じて各自治会長へ、各組長へのアンケートの配布及び回収を依頼した。

大学へは学生課及び大学教授へ依頼し、アンケートの配付及び回収を依頼した。

3. 回収状況

アンケート回収数は 3,249 枚、平均で 74.8%の回収率であった。

	配布枚数	回収枚数	回収率
西　部	８８９	６４８	７２．９％
北　部	１，２９８	９７８	７５．３％
藁　科	１，１４２	９８４	８６．１％
駿　河	１，０１５	６３９	６２．９％
合　計	４，３４４	３，２４９	７４．８％

※回収割合は、図4のとおり

Ⅱ調査結果

1. アンケートの集計結果

性別	男性	女性	無回答
	1,271	1,936	42

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
	352	255	267	426	455	741	552	166	35

職業	会社員	パート	主婦	学生	産休	無職	その他	無回答
	1,009	517	454	552	2	587	70	58

質問4　自由になる時間帯はいつか。

平日	6:00～	9:00～	12:00～	15:00～	18:00～	21:00～	あまりない
	318	587	681	463	974	1,354	715
土日	6:00～	9:00～	12:00～	15:00～	18:00～	21:00～	あまりない
	682	1,025	1,100	994	1,062	1,261	675

質問5　知っている施設について（複数回答可）

	アイセル	きてこ	西部	南部	東部	長田	北部	藁科	大里	西奈	美和	なし
	1,630	788	857	611	348	492	1,231	1,205	395	424	355	561

質問6　下記の施設で行われていることを知っているか。

	会議室	サークル利用	紹介、案内	まつり	講座企画	各種学習	活動支援	その他
知っている	1,660	1,817	1,304	1,468	1,679	1,165	887	16

質問7　利用したことがあるものはどれか。

	会議室	サークル利用	紹介、案内	まつり	講座に参加	問い合わせ	活動支援	その他
ある	621	682	388	722	643	252	149	9

質問8　知らない理由（複数回答可）

	場所知らない	趣味の時間ない	タイミングあわない	別の場所利用	交通手段なし	その他
該当する	487	525	228	228	63	194

質問9　興味ある分野について（複数回答可）

	歴史	美術	音楽	科学	スポーツ	料理	子育て	異文化	健康
ある	626	516	1,010	186	1,111	850	441	287	1,270
	福祉	パソコン	環境問題	消費者	防災	仕事のため	自然体験	その他	興味ない
ある	458	563	205	137	484	360	369	56	209

質問10　1年以内に参加した分野について（複数回答可）

	歴史	美術	音楽	科学	スポーツ	料理	子育て	異文化	健康
ある	183	134	285	39	371	169	161	105	319
	福祉	パソコン	環境問題	消費者	防災	仕事のため	自然体験	その他	どれもやってない
ある	234	124	53	26	237	138	71	56	1,575

質問11　どのようなところで学んだのか（複数回答可）

	学校の正規課程	学校の公開講座	公共施設の講座	カルチャーセンター	図書館・博物館	サークル	職場の研修	独学	その他
ある	201	146	351	298	314	395	153	104	61

質問12　普段どのように情報を得ているか（複数回答可）

	家族・友人	学校・職場	新聞・雑誌	インターネット	広報しずおか	チラシ・ポスター	回覧板	その他
ある	691	401	412	438	534	263	330	23

2. 回答者の属性

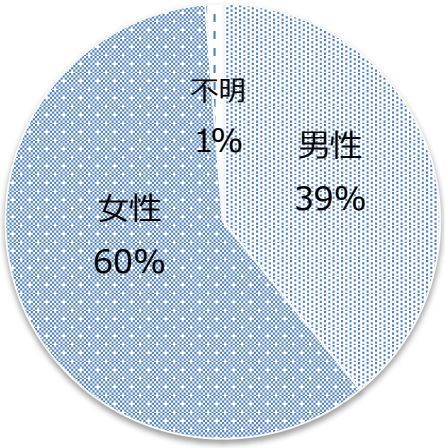


図 1　回答者の性別

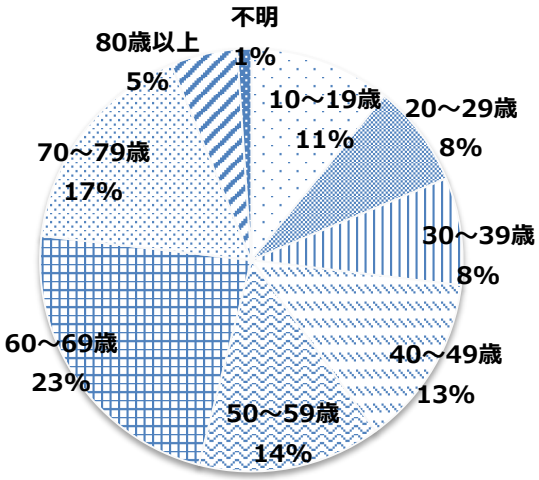


図 2　回答者の年代

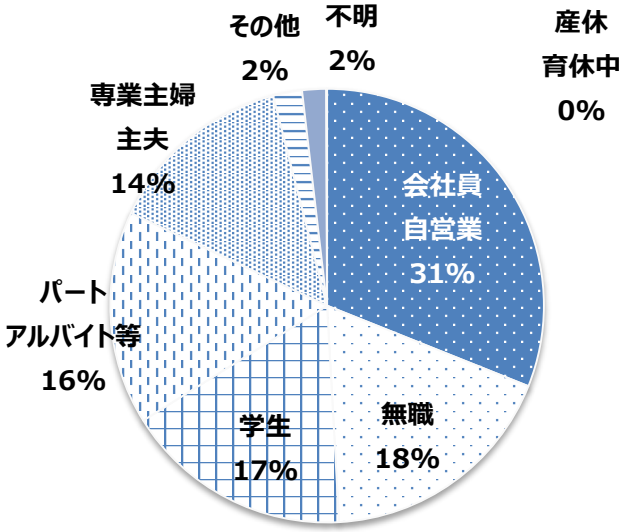


図 3　回答者の職業

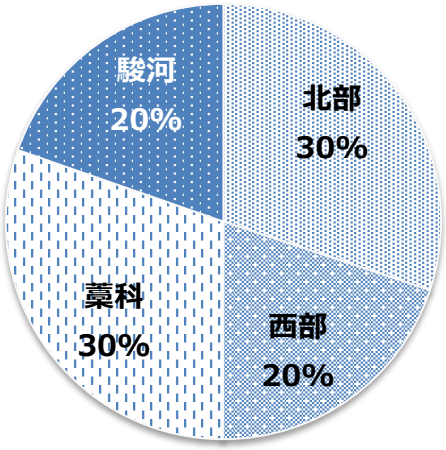


図 4　施設ごとのアンケート回収比率

3. アンケート結果のグラフ

（1）一日の中で自由になる時間帯（複数回答可）

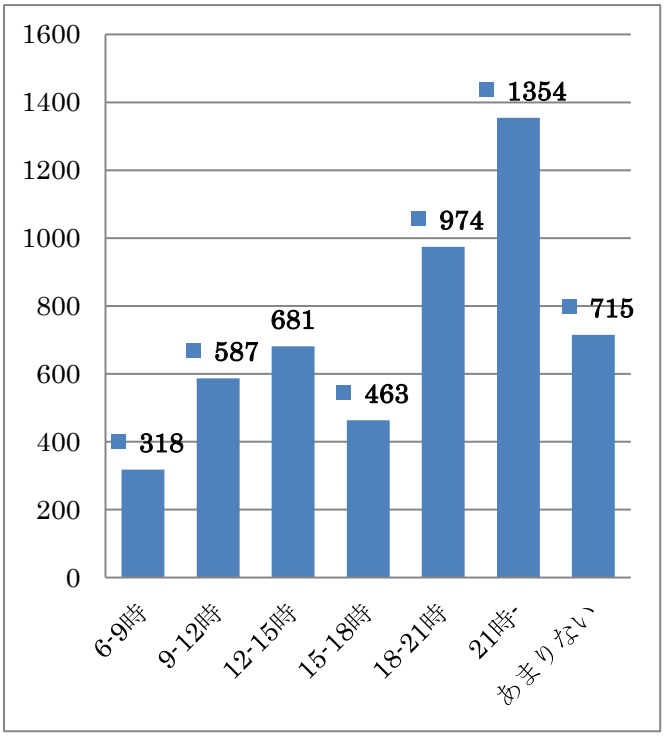


図 5　自由になる時間帯（平日）

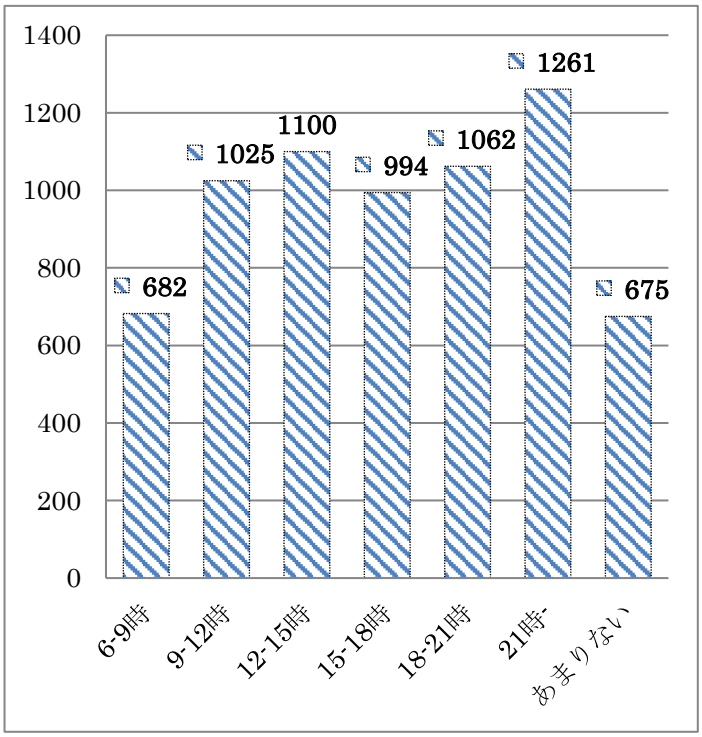


図 6　自由になる時間帯（土日）

平日に自由になる時間帯についてアンケート調査を行ったところ、図 5 の通り 21 時以降が多かった。また、18 時以降も多いが、これは、図 3 のとおり、学生、会社員、アルバイトの比率が半数を超えているためと考えられる。10 代～50 代も図 2 のとおり半数を超えており、就労層が参加できる時間帯に事業を行うことで、参加者も見込めるのではないか。

土日の自由になる時間帯については、図 6 のとおりになった。平日と同様、21 時以降が多いが、どの時間帯であっても自由になると回答している人が多く、こちらは、どの時間帯に事業を展開しても受講が見込める。

10 代から 30 代の新たな世代獲得のため、Ⅲで分析を行う。世代を区切った分析から、より詳細な受講可能な時間や内容について考察していく。

(2)静岡市生涯学習センターの認知度

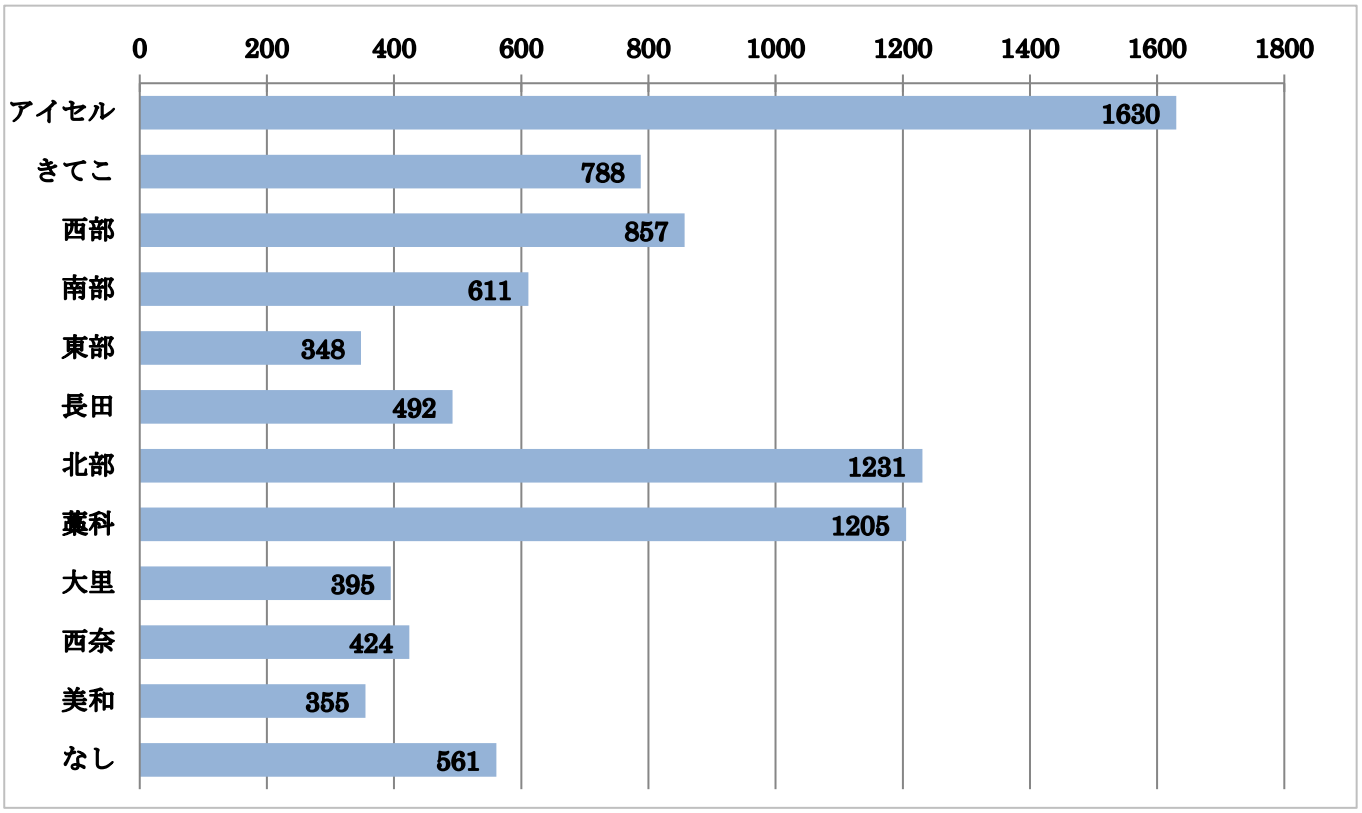


図 7　静岡市の生涯学習センターの認知度

(3)静岡市生涯学習センターの利用内容の認知度

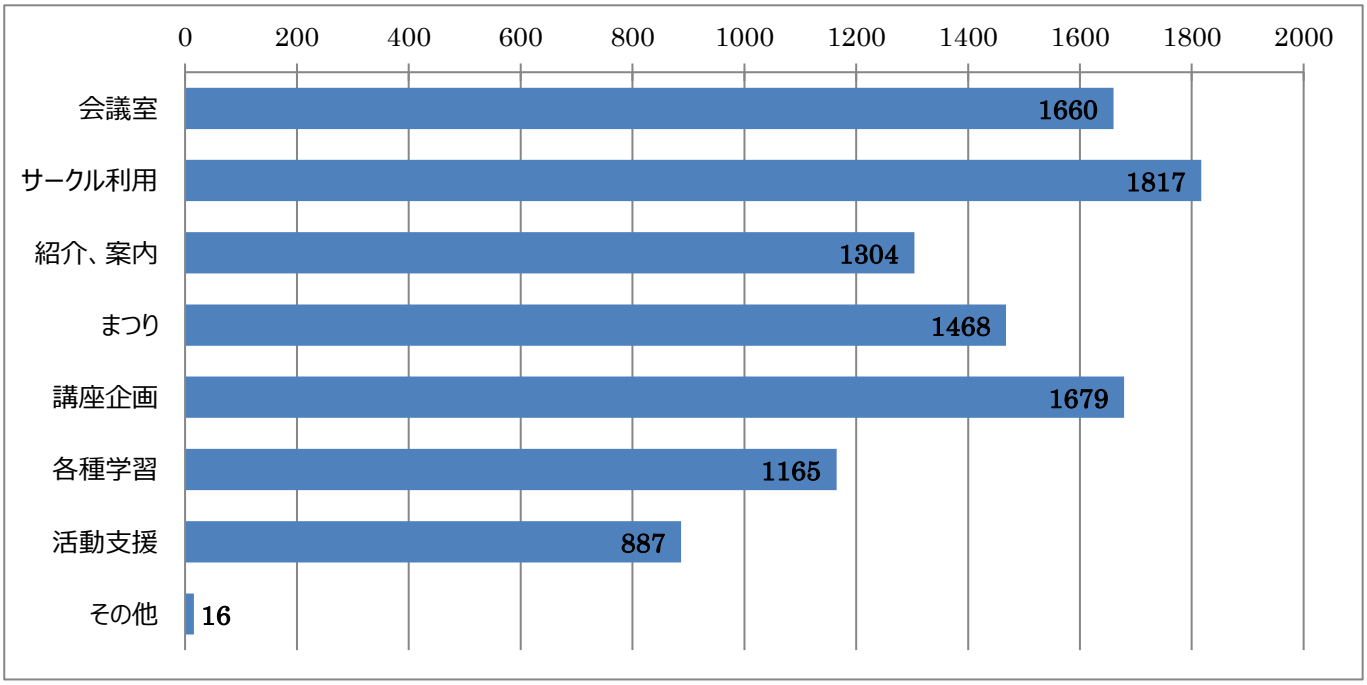


図 8　静岡市の生涯学習センターの利用内容の認知度

(4)静岡市生涯学習センターの利用経験

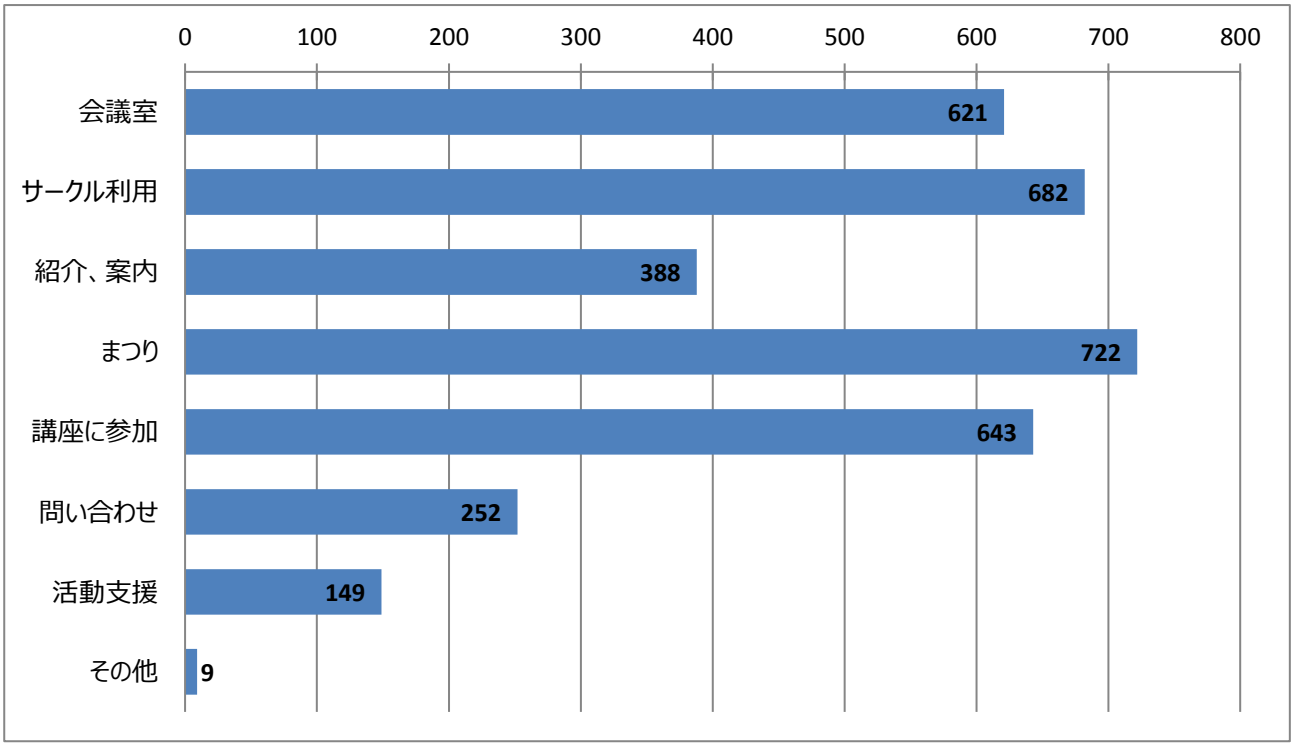


図 9　静岡市の生涯学習センターの利用内容の頻度

(5)静岡市生涯学習センターを知らない理由

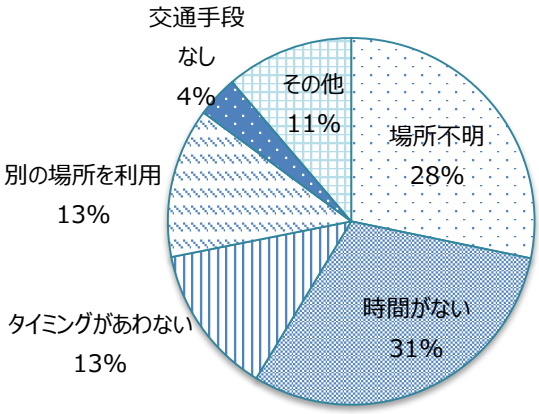


図 10　静岡市の生涯学習センターを知らない理由

静岡市生涯学習センターの認知度について調べたところ、図 7 の通りとなった。アンケートを配布した施設の認知度は高いが、その施設から離れた東部、長田、大里、西奈、美和は、低い結果となった。その反面、葵(アイセル)は、他の施設に比べて認知度が高いことが分かる。図 10 の通り、場所を知らないことも、利用されない理由の1つであると考えられる。

(6)興味ある分野及び1年以内に学んだ分野(複数回答可)

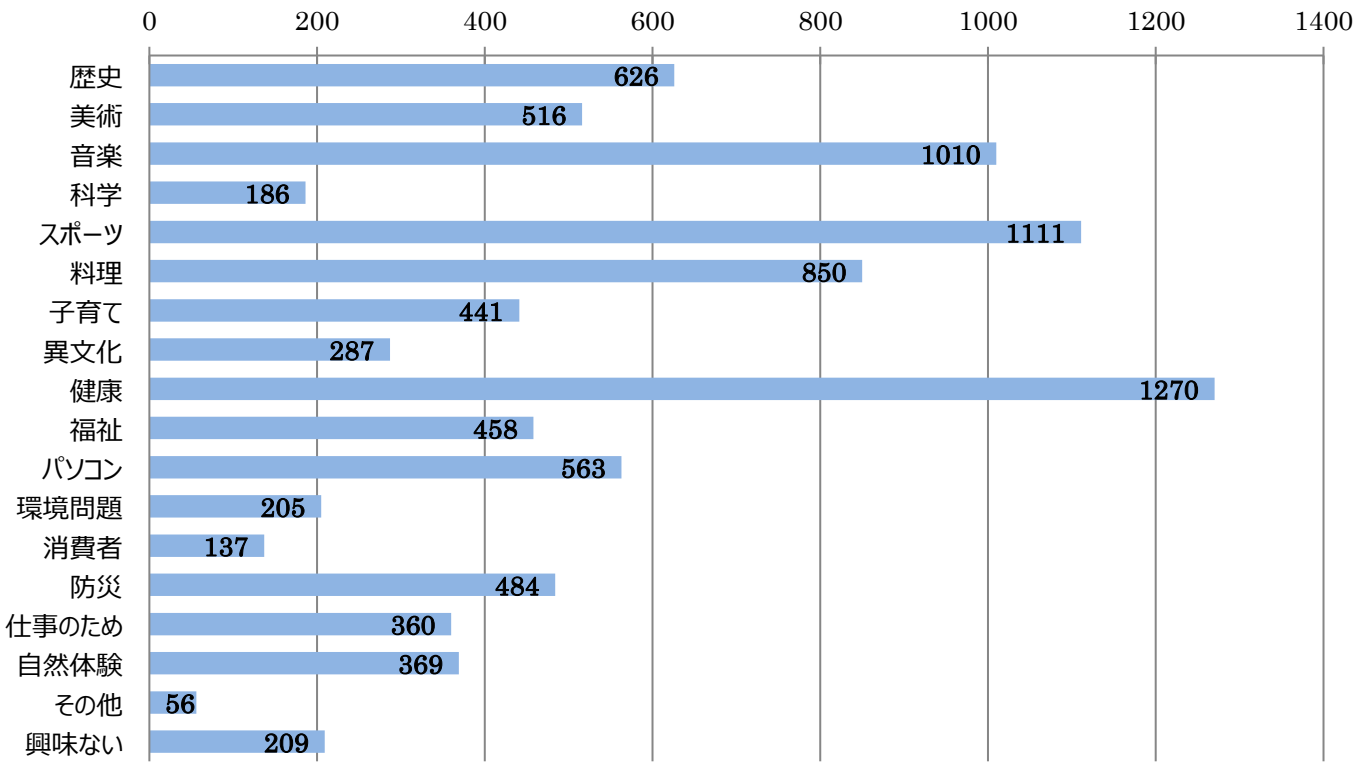


図 11　興味ある分野

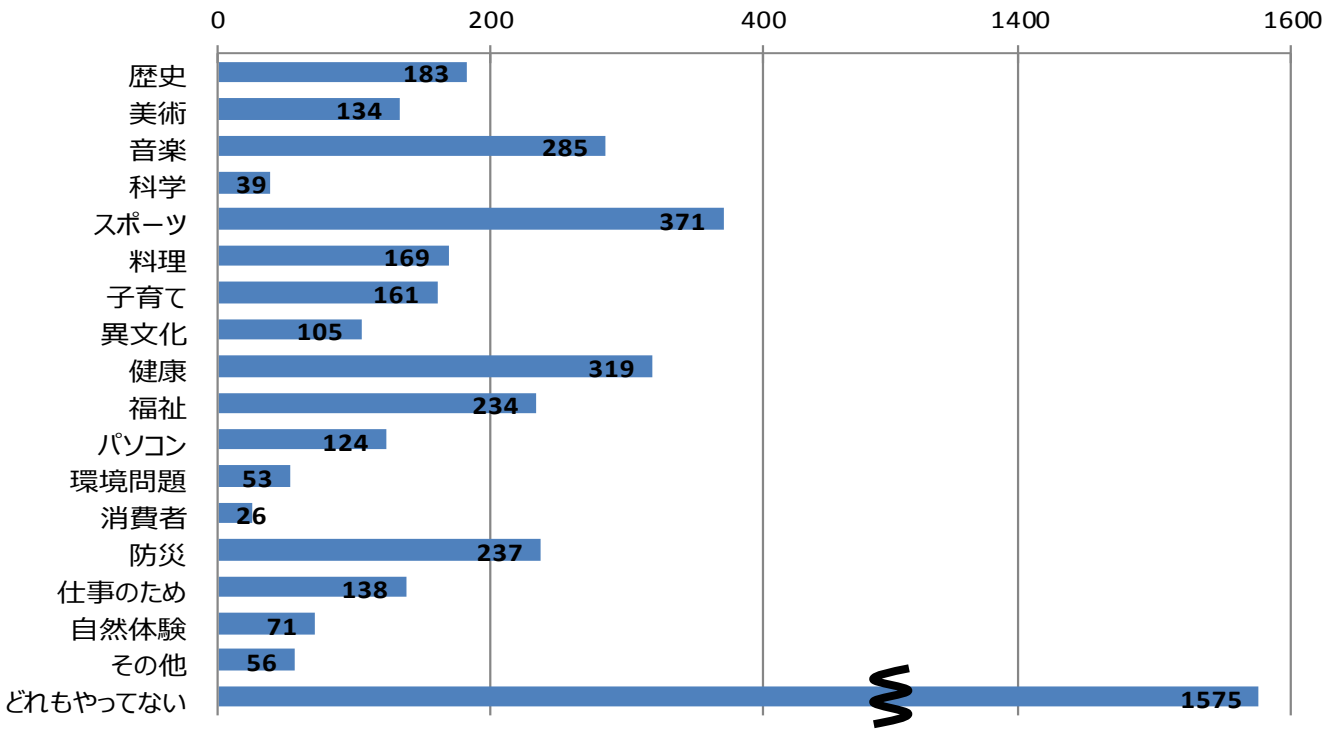


図 12　1年以内に学んだ分野

(7)学んだ分野はどこで学んだか(複数回答可)

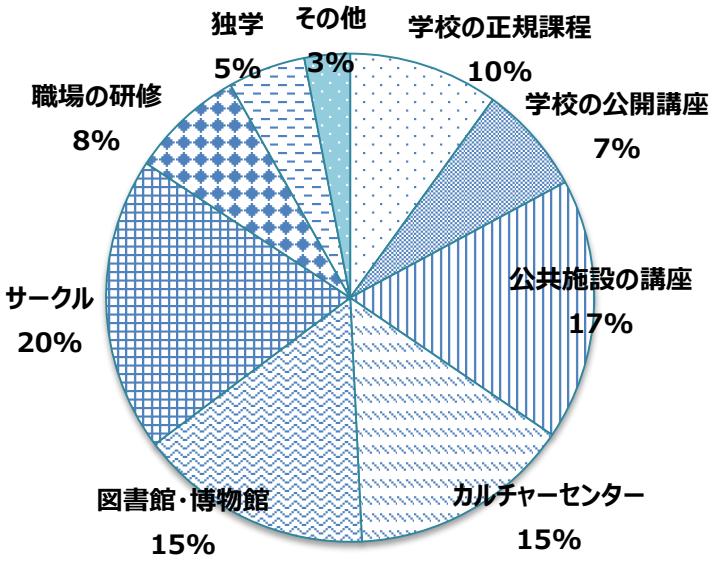


図 13　学んだ分野をどこの施設で学んだか

(8)情報を得る手段(複数回答可)

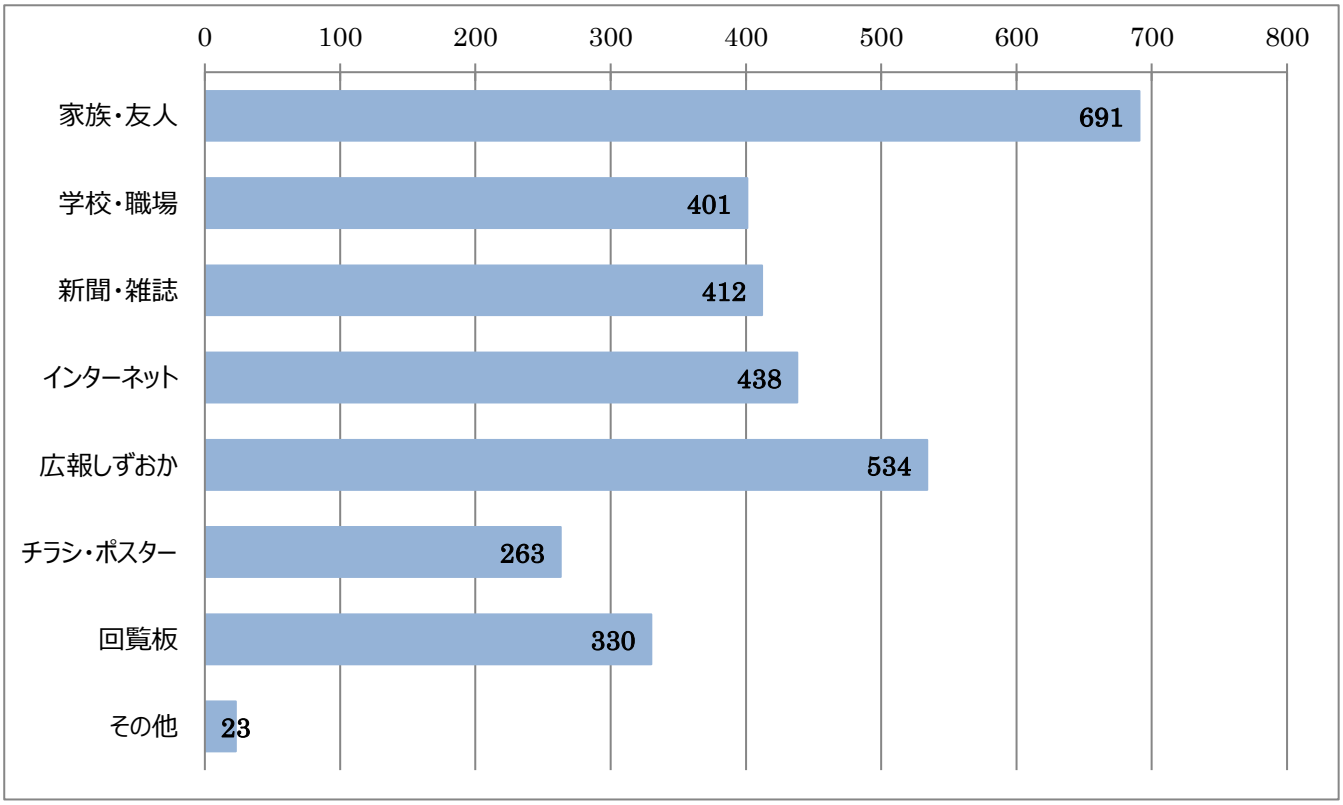


図 14　情報を得る手段

Ⅲ　分析

全体の 20%を占める回収率だった駿河生涯学習センターは、主に大学生を対象にアンケートを配布した。その結果、10 代から 30 代の回答者は、25%を超えた。

現在、各生涯学習センターでは、高齢者の利用が多く、学生、就労層の利用は少ない傾向にある。そのため、どのようにしたら、生涯学習センターを利用してもらえるか、以下の内容について分析を行った。

1. 生涯学習センターの利用の有無

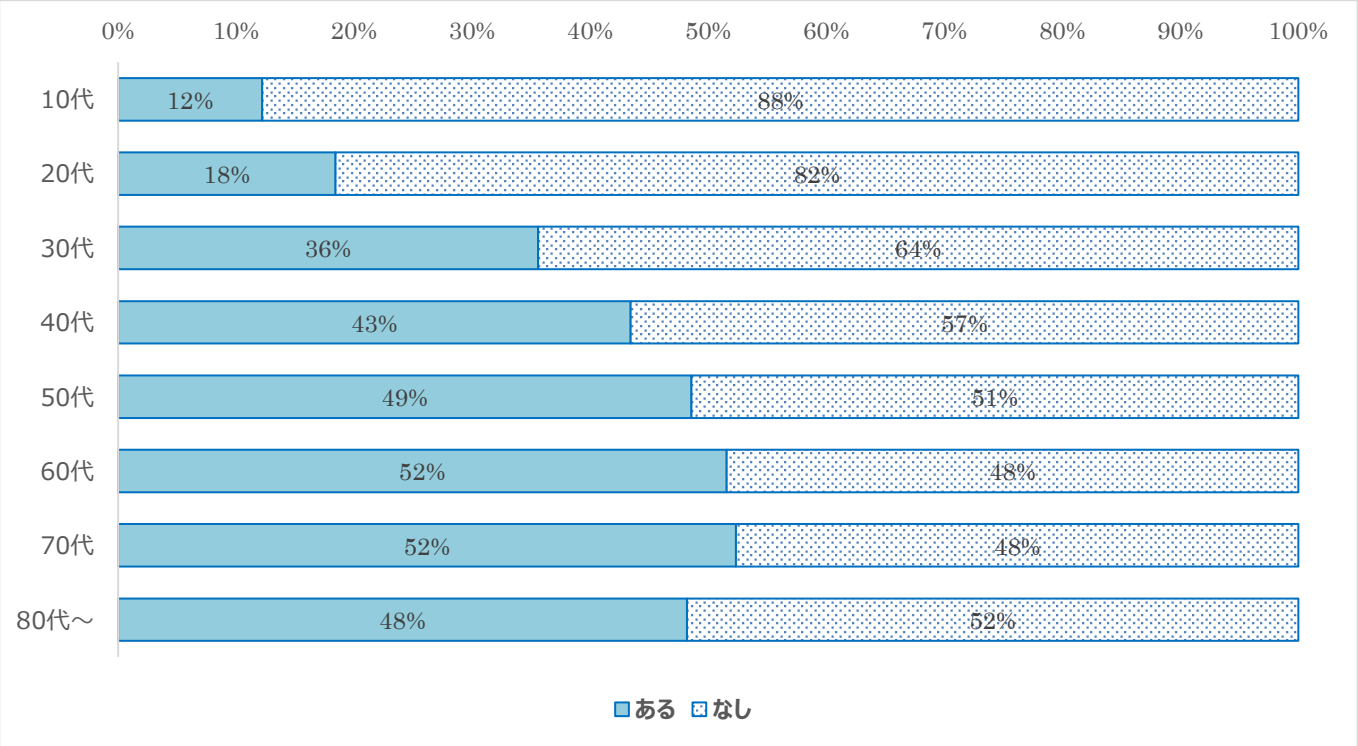


図 15　年齢別利用の有無

《特徴・分析》

利用の有無を世代別に集計したところ、図 15 の通りとなり、10 代から 30 代は利用有が 40%に至らなかった。他世代と比べ利用が少ないこの世代の利用を増やすことが、生涯学習センターの利用率増加に繋がると考えられるため、利用していない主な理由について調べてみる。

2. 10 代から 30 代の利用していない人の主な理由

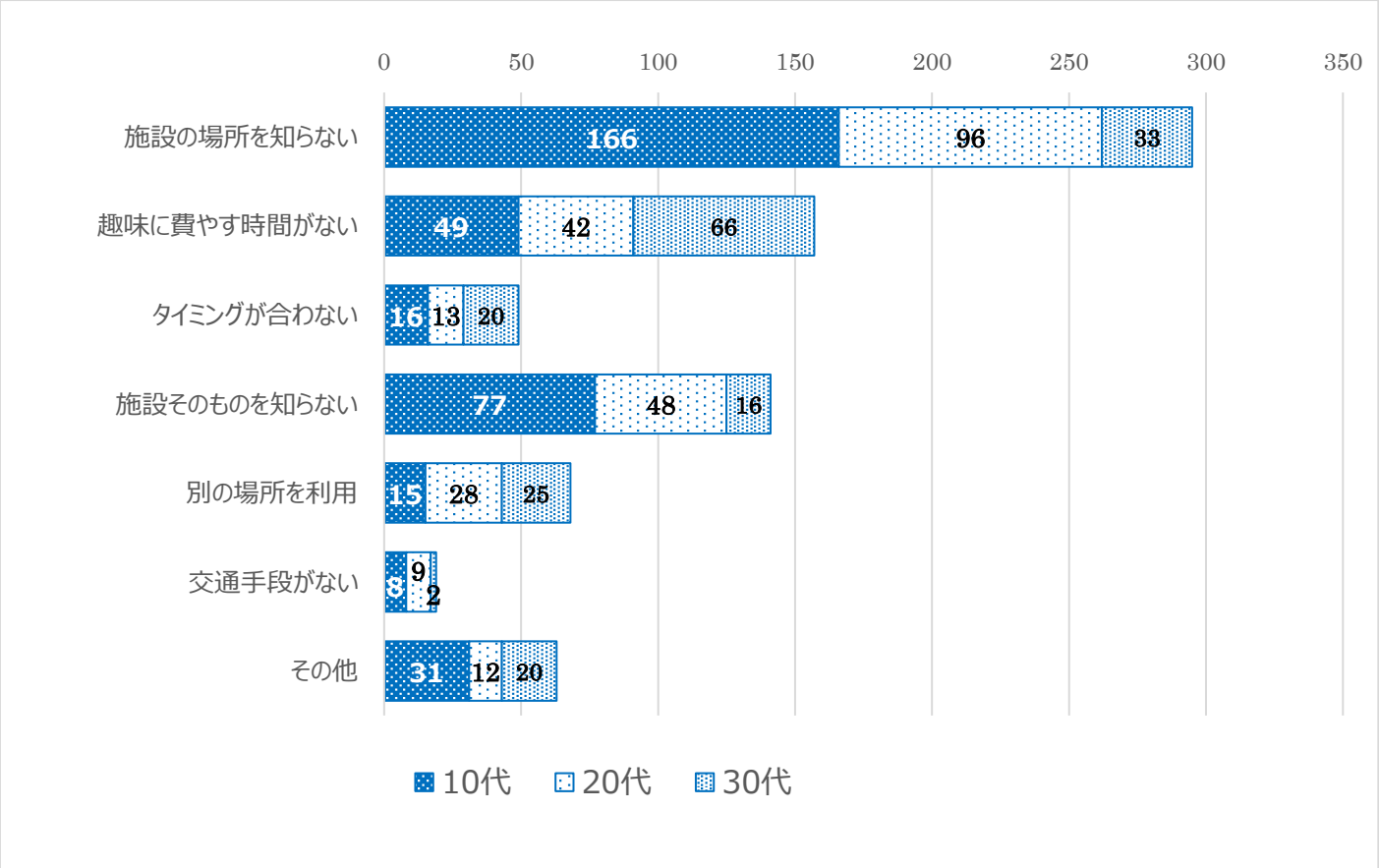


図 16　10 代から 30 代の利用していない主な理由

《特徴・分析》

10 代から 30 代の利用していない人の主な理由については、施設そのものや場所を知らないという回答が多い。特に、10 代、20 代に多く、その世代を対象とした講座を計画するときには、施設の場所の地図や案内を掲載することも必要になる。また、趣味に費やす時間がないとの回答も多く、時間にゆとりがないということも分かる。興味ある分野や関心が高い内容を取り上げ、講座情報をどこから得ているかの情報源を調査することで、若い世代獲得が考えられる。

3. 生涯学習センターの活動に参加しようと思ったがタイミングが合わなかった人の興味ある分野と参加できる時間帯

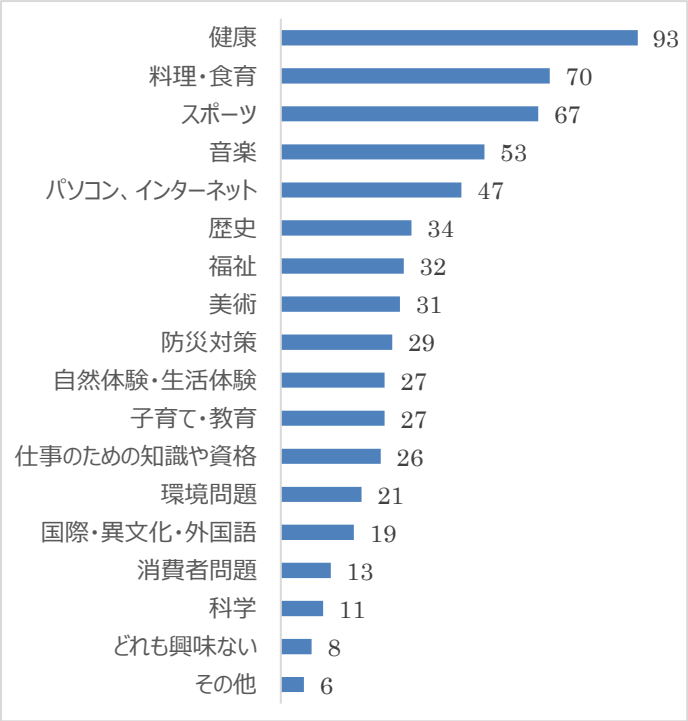


図 17 「参加しようと思ったが、タイミングがあわなかった」人の興味分野

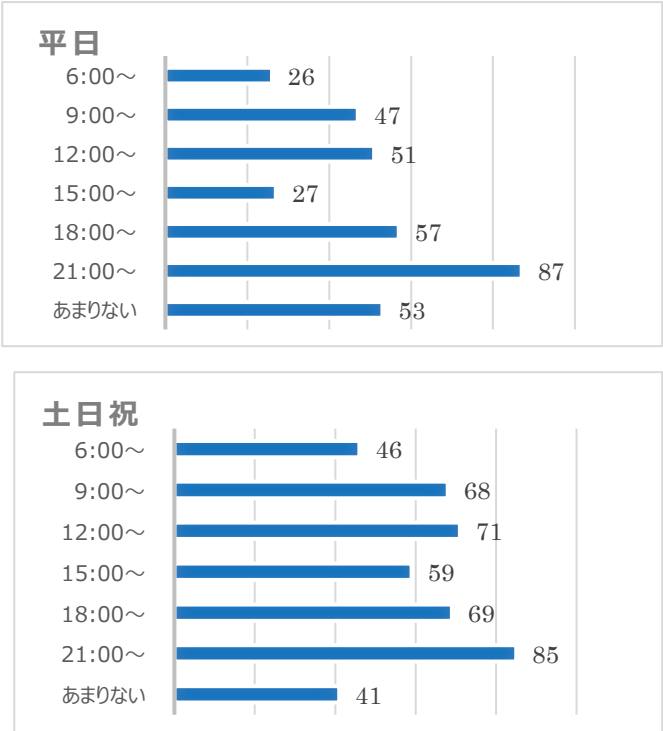


図 18 「参加しようと思ったが、タイミングが合わなかった」人の自由になる時間帯

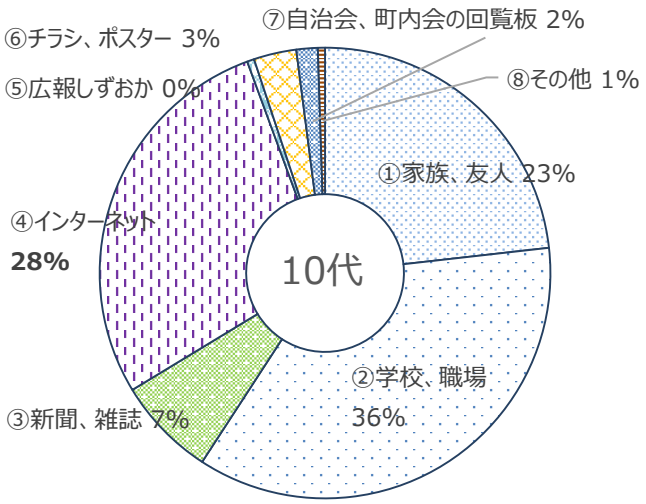
《特徴・分析》

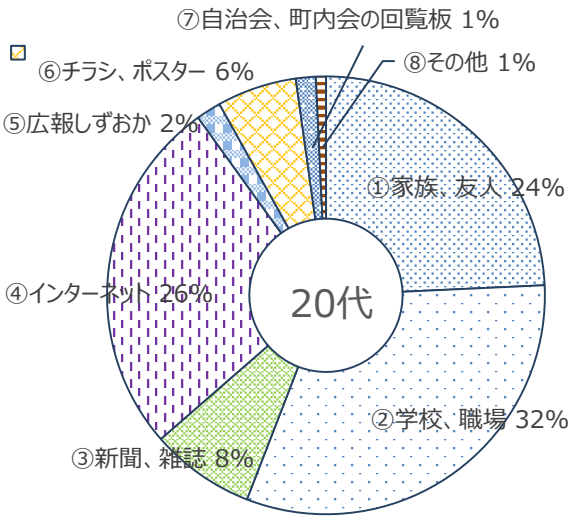
センター活動に参加しようとしたが、タイミングの合わなかった人の興味ある分野は、図 17 の通り「健康」「食育」「スポーツ」と身体に関係するものが上位を占め、健康への関心が高いことが分かる。また、「音楽」、「パソコン」と続き、趣味や仕事等で使用するものへの関心が高い。

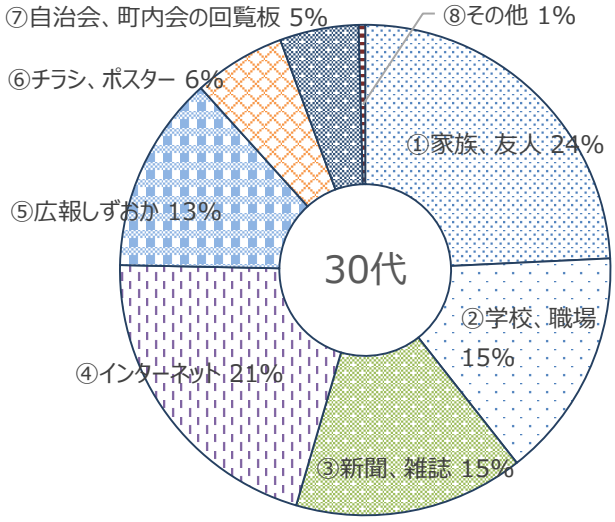
参加しようと思ったがタイミングが合わなかった人の自由になる時間帯について調べたところ、図 18 の通り 21 時以降が平日、土日共に多い。生涯学習センターでの 21 時以降での講座実施は条例で開館時間が定められているため困難であるが、次いで多い 18 時以降に健康や趣味に関する講座を実施することで、新たな受講者獲得に繋がる可能性がある。

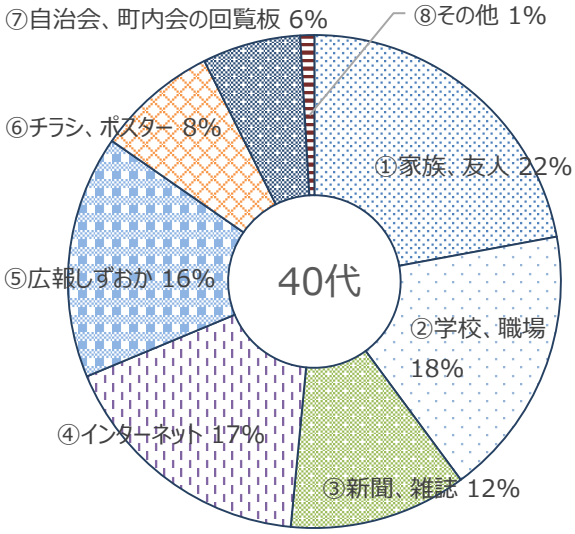
以上のことから、興味ある分野と参加できる時間帯を考慮して講座を実施することが必要である。

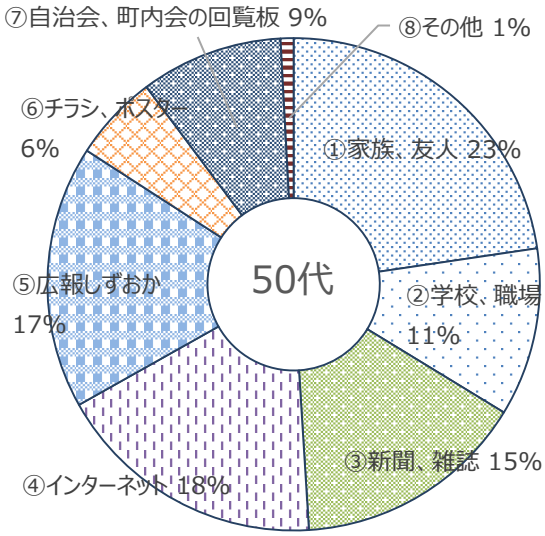
4. 世代別利用者の情報源

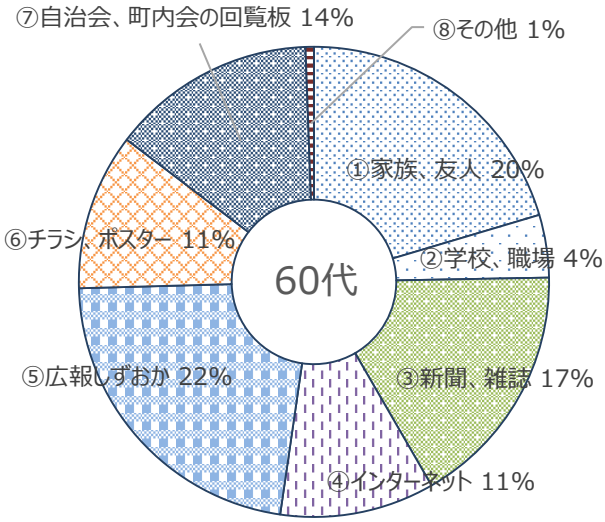


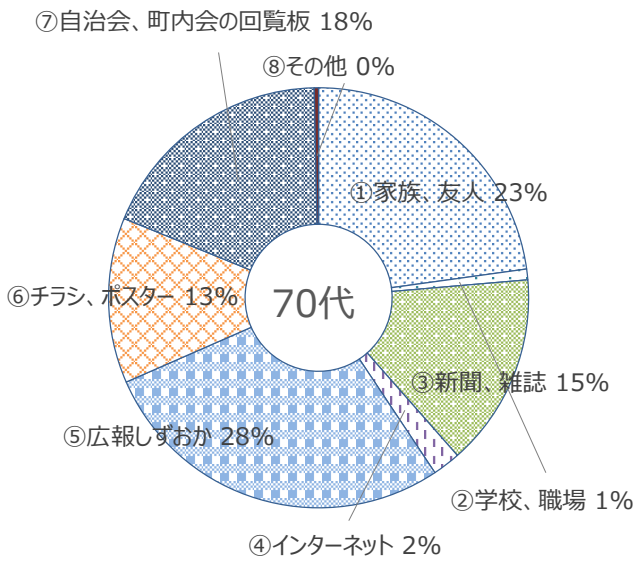


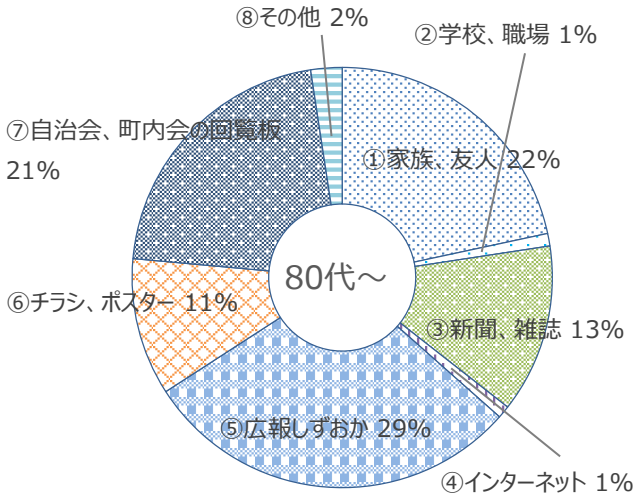












《特徴・分析》

10 代、20 代の講座情報源は、「家族、友人」「学校、職場」「インターネット」からが多い。この世代を獲得するには、口コミやインターネット等の有効活用を考える必要がある。一方、70 代以上では約 30%が、「広報しずおか」から得ていることが分かる。講座で受講者にアンケートを取ると下記のとおり半数以上が広報しずおかから情報を得ていると回答しており、生涯学習センターの利用者層は高齢者が多い理由がそこにあると考えられる。また 60 代以上では、「自治会、町内会の回覧板」の割合も高い。この世代の獲得を目指す場合、有効な講座情報提供手段になると考えられる。

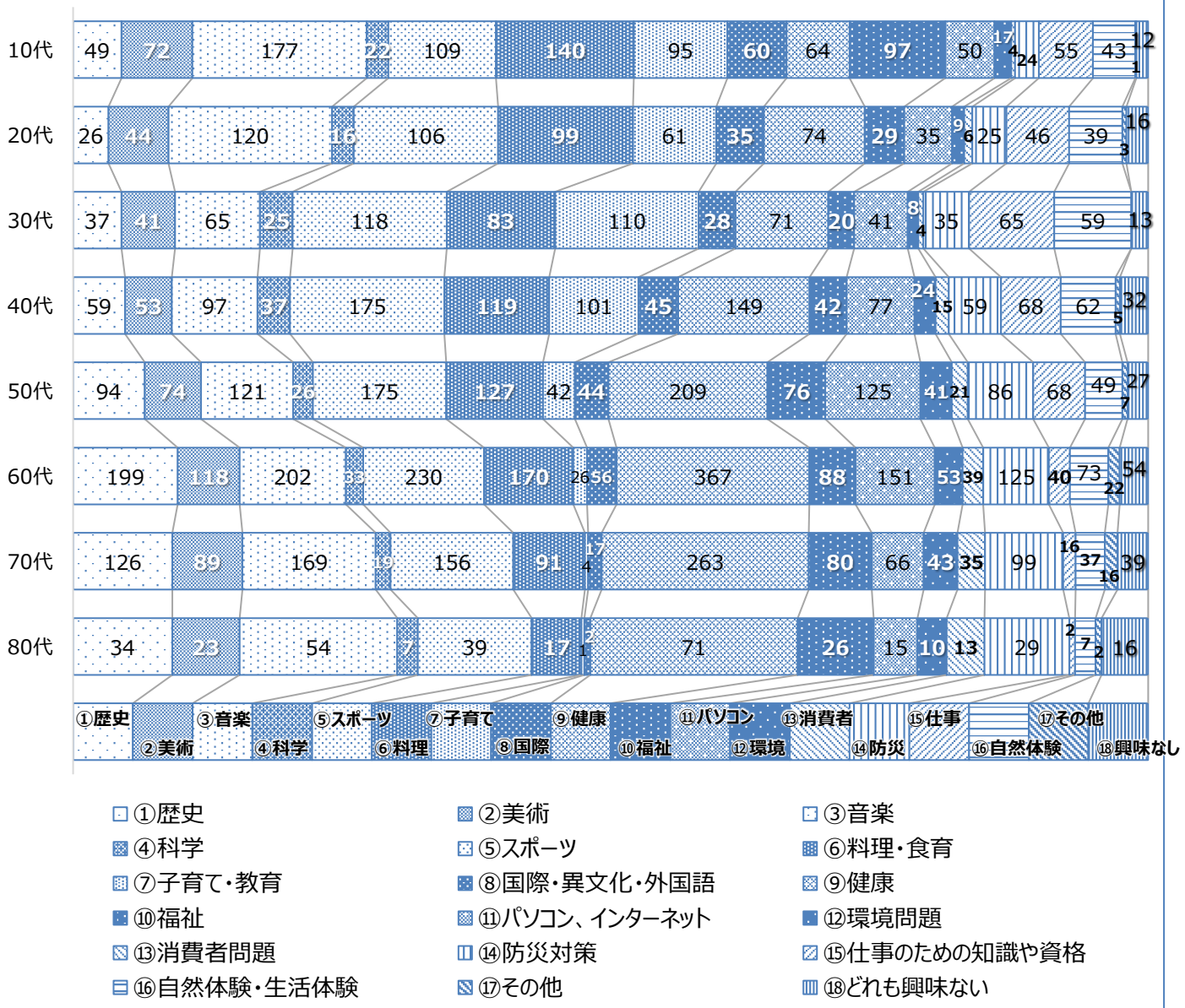
世代ごとにあった情報提供をすることで、その対象となる受講者の獲得が見込まれる。

参考

受講者の講座情報源(平成27年度393講座で取った受講者アンケートより)

広報	ポスター チラシ	新聞	テレビ ラジオ	WEB メルマガ	イベント ニュース	その他	無回答	合計
4,043	1,685	67	4	717	154	1,455	139	8,264

5. 年代別の興味ある分野について



《特徴・分析》

10 代、20 代は音楽、スポーツ、料理が全体の 3 割を占めるが、50 代以上になると健康についての興味が高いことが読み取れる。また、少数ではあるが、仕事に関することについて、10 代から 50 代までは興味をもっていることが分かる。スキルアップに繋がる講座を企画することが、就労層の獲得に繋がると考えられる。

音楽、スポーツ、健康がどの年代でも上位を占めており、生涯学習センターの利用の有無に関わらず、関心が高いことが分かる。これらの講座を開催することで、幅広い世代の参加が見込まれる。施設の条件にあったアプローチの方法を考えていく必要がある。

Ⅳ. 今後の課題

生涯学習センターを利用したことがあるのは、30 代以下が少ないということが分かった。30 代までの利用を増やすことが、生涯学習センター利用者増加の鍵である。彼らの利用を増やすためは、情報源として学校、職場、家族、友達から得られていることがアンケート結果より分かるので、今後、対象となる世代へどのように情報を伝えていくかの戦略が課題である。

幅広い情報提供と、関心の高い事業を実施することで、新たな利用者獲得につなげていきたい。